

## 再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン（第5期）案に対する県民意見公募の結果について

意見提出者：1人（社）

意見提出数：2件

アクションプランの修正数：0件

No.	頁	行	意見	対応方針
1	56	1802-1813	<p>福島県には五つの活火山がある。そのうちの一つが福島市にある吾妻山である。近隣の高湯温泉地から豊かに湧き出る硫化水素火山性ガスがある。福島市にある福島大学共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所等にての研究開発・探索・活用を期待するが如何だろうか。有望な材料だと思うのでどんどん考えてほしい。</p> <p>硫化水素を分離して、水素エネルギーと硫黄原料に活用する。副産物の硫黄は福島県の名産アンボ柿の燻煙に、マグネシウム電池用正極複合材料に、マッチの着火剤に、半導体のドライエッチング剤に、写真プリントの漂白剤に、藍色の染色剤に、ゴム成分の弾性を上げたり、肥料等に化学利用出来る。</p> <p>ちなみに、東北大学での研究では、下水汚泥から抽出した硫化水素を光触媒とナノテクノロジーを使いリサイクル研究しているようだ。</p> <p>また、FREAにおける岩手県葛根田地域では超臨界地熱発電の調査井の掘削まで来ているようだからもうすぐ事業化ステージに入る。高温・腐食性酸性に強い井戸を実現し商用化を目指している。</p> <p>海外に目を転じれば、中国では新疆タリム盆地と四川盆地の深層ガスについてペトロチャイナ石油探査開発研究所が分析中だが硫化水素があるから天然水素埋蔵の可能性があるといる。</p> <p>スイスを中心とするアルプス山脈一帯も天然水素が埋蔵されているらしい。</p> <p>処で、熱しやすく冷めにくいといった特徴を備える天然の岩石を利用した「岩石蓄熱」は再生可能エネルギーになるのかな？火成岩や堆積岩等の地産地消出来る材料で岩石蓄熱研究も面白いと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>地域資源等を活用した水素製造については、福島大学水素エネルギー総合研究所が行う木材等のバイオマスから水素を製造する研究開発など、大学やFREA等の研究機関と企業が取り組むこうした研究開発等を支援し、地域資源を活用した水素の製造に関する取組を進めてまいります。</p>
2	56	1802-1813	<p>大学を取り巻く研究成果の普及法制をおさらいしてみた。すると、『国立大学法人法22条の5号』（当該国立大学における研究成果を普及し、及びその活用を促進すること。）、『教育基本法7条1項』（大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。）、『学校教育法83条2項』（大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。）、『産業技術力強化法6条1項』（大学は、その活動が産業技術力の強化に資するものであることにかんがみ、人材の育成並びに研究及びその成果の普及に自主的かつ積極的に努めるものとする。）等に気付いた。</p> <p>これらから大学の研究目的の一つは【公共財の創出】である事がハッキリした。</p> <p>福島県は、より一層の学産民金官連携をしっかりと果たし社会課題解決に、『産業技術力強化法5条』（地方公共団体は、基本理念ののっとり、産業技術力の強化に関し、国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性を生かした自主的な施策を策定し、及びこれを実施する責務を有する。）を念頭において、さらに先駆けて行って欲しいと願う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今後、大学、産業界等との連携を一層緊密にしながら、再生可能エネルギー先駆けの地の実現に向けて、取組を進めてまいります。</p>